

教育における地域社会の役割

—山形市民の意識調査から見た地域教育像—

田中 謙一

1. はじめに

1.1 研究に先立って

近年「総合的な学習の時間」の設置など、青少年生涯学習が本格的に始まり、同時に地域教育の必要性も求められるようになった。

1.2 先行研究のまとめ

地域教育に関する多くの文献が学校の視点でしか書かれていないのである。地域が主体性をもって教育を担う、というような記述はされていない。

更に、地域教育についての統一的な定義も共通の認識もされていないのである。

1.3 本稿の目的と意義

本稿では統一でない地域側の地域教育観をカテゴリ分けするのが目的となる。

イメージのみが先行してしまっている地域教育という言葉に実像を与えることができるのである。これは、今後の地域教育にあたって、非常に有用性の高いものなのである。

2. モデル・方法の説明

2.1 モデルについて

モデルとして、3つの要因を用意した。関与、関心、満足度である。

関与において、直接的、間接的の2分類。関心については、5種類の設問。満足度については高低、種類の2分類を用意した。

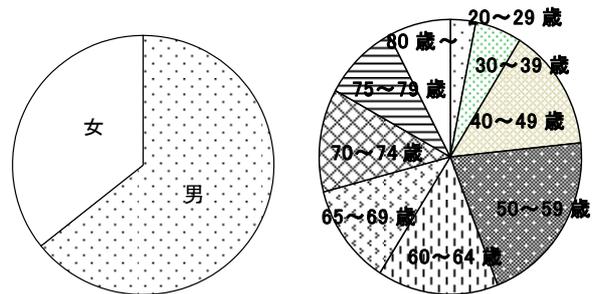
2.2 検証方法

検証方法としては、山形市民を対象とした意識アンケートを実施した。その解析結果を用いて検証を行う。

3. 結果

3.1 アンケートの回収結果

回収率 65.4 パーセント



3.2 解析結果

	満足度	必要性	個人関心	外的関心
直接関与	+		+	
間接関与	-	+		+

4. 考察

4.1 検証結果

部分的には効果的な結果でなかったにしろ、二つのカテゴリ化の理由は仮説とほぼ一致している。更に、その属性についても分類わけ、系統立てができたのである。

4.2 今後の課題

ここでの研究は、あくまでも漠然とした地域教育像のカテゴリ化である。よって、地域教育の本質については何ら迫っていないので、今後はその本質についての研究が必要となる。